

Photo File

2014年12月～2015年3月

一部ではありますが、西脇TMOの活動を記録写真でご紹介します。

■ 西脇山口匠弘 作品展

12月13日(出)～26日(日)

日展をはじめ、大きな公募展で入選された作品がズラリ角度によって表情を変える大型の壺たちを間近で鑑賞することができ、陶芸の力強さや奥深さが感じられました。(P)

■ 学生ボランティアを招き来ておもちつき会

12月26日(日)

西脇TMOの活動に参加した西脇北高校や西脇中学校のボランティアを招いて、ねぎらいの「おもちつき会」を開催。お餅を初めてついたという子も珍しくなく、いい経験になったと後日お礼状もいただきました。こうした交流によって日本文化を若い人たちに受け継いでもらえたらと、西脇TMO推進室の岸正博室長は思いを寄せています。

■ 八幡神社 初詣で年越し豚汁のふるまい

大晦日～元日

すっかり恒例となった八幡神社での年越し豚汁、手足がつかむ寒さの中、心まで温まるおいしさで、新年早々たくさんの笑顔を見ることができました。(は)



大好評の餅福福

かしわ餅 かいちご粒あん

昭和八年創業 京屋菓子舗

黒田庄町大門81の3 ☎0795(28)2029

和味深心 KU 彌介 YASUKE

昼 1,000円～*11時～14時
夜 1,000円～*17時～22時

*料理おさめは21時30分とさせていただきます *予約優先・不定休

懐かしの昭和復刻メニューが好評

- 秘伝のデミグラスソースで作る とんかつ御膳 1,500円
- ハンバーグ御膳 1,500円
- いろいろなお味を少しずつ多彩に ちょこっとおばんざい御膳 1,000円

☎0795-22-4817 西脇市和布町188-4 (来住邸より南へ800m)

民家再生十家十色

木の家は生きています 壊さないで… 思い出の詰まった家を守るため 日本伝統を残すため 古民家再生 お手伝いさせていただきます。

相談受付中です。

有限会社 すぎもと工務店

兵庫県西脇市津万416
TEL.0795-22-5823 URL http://www.sugimotokomuten.com
FAX.0795-22-0085 E-mail: info@sugimotokomuten.com

一期一会

▲村上政福さんが雅子夫人とともに西脇時報の談話室に寄稿されてきた随筆を一冊にまとめた「一期一会」。

■ 西脇高校美術部 第7回美術部作品展

1月7日(水)～18日(日)

1・2年生8名による作品展。今年で7回を数え、新年の来住邸を彩る風物詩となっています。油絵や水彩画、絵本など計24点の作品はいずれも瑞々しい感性で描かれ、生徒の皆さんの個性が光る展示でした。(P)



■ 第11回 来住邸新春子ども書き初め大会&作品展

書き初め大会 1月10日(土) 作品展 1月11日(日)～31日(土)

底冷えする中、早朝から幼児・小中学生が来住邸で腕だめし。3枚の用紙に課題の字を書き、一番上手に書けた1枚を提出します。子供達の用紙に向き合う真剣な表情と終わった後にさくらちゃんとふれあう笑顔のギャップがとても印象的でした。(宇焼耐)



■ 西脇高校茶道部 初釜(年始のお茶会)

1月6日(火)

今年で97歳になる大正屋敷が新春早々華やきました。



■ 西脇高校書道部 書道選抜生にしかおきつしんげん 坂書道展 第6回 つばき坂書道展

1月18日(日)～2月1日(日)

書の楽しさ、奥深さが伝わる作品ばかり。……この「絆」は太くはないが切れないさそう。この「羊」の角は立派だなあ。…想像が膨らみます(は)



■ 西脇高校生活情報科 梅吉亭で日々の成果発表

2月4日(水)～6日(金)

西高生が梅吉亭シェフに!ランチやカフェのメニューから、テーブルクロス、エプロンまで手作り。



■ うれしの学園 生涯大学 絵画クラブ作品展

2月4日(水)～13日(日)

見応え十分の28作品。どこか神話を感じる風景画や、異国情緒漂う絵画など作品から発せられるエネルギーに圧倒されました。(かぶたつく)



■ 大西秀夫 写真展

接写で迫る「早巻・昆虫の小宇宙」

2月15日(日)～27日(金)

独自の「虫学」を楽しむ大西さんは、黒田庄町大伏在住、元小学校の先生です。ミクロの世界を捉えた写真と、虫の心まで読み取ったコメント、昆虫の生態を紹介。身近な生き物を知ることで視野が広がる楽しい学びの展示でした。(は)



■ 「寺子屋」活動 思い出帳を作成

3月6日(日)

来住邸へ再三来てくれた幼稚園児に写真満載の思い出帳をプレゼント。



■ 牧野紘子と仲間たち 心やすさを織り展

3月1日(日)～15日(日)

加東市の「さをり織り」作家・牧野紘子さんを中心に愛好家20人による約200作品がずらり。出品者の福田孝美さん、真人さん母子は、さをり織り歴9年目。「さをり織りはきれいで、そして楽しい。何年でも続けたい」と語っておられました。(は)



■ 生け花・茶道・手芸 子ども教室発表会

3月7日(土)・8日(日)

子どもの感性に大人もはっとすると、毎年好評の発表会。お茶席のお点前もお見事でした。



■ キヤノン・ハーシーさん 来住邸来訪

3月17日(火)

1946年のルポ記事「ヒロシマ」で有名なジャーナリストを祖父に持つ、米国の芸術家 キヤノン・ハーシーさんが来訪。岸室長と。



■ 文化展のお知らせ

旧来住家住宅

※最新の展示情報は公式ホームページをご覧ください。

来住邸お知らせ 検索

- 第3回 藤井千誠 植物画作品展 5月2日(出)～14日(木)
- 木創人 河野好文展 4月15日(水)～30日(木)
- 三人展 4月1日(水)～12日(日)
- 日吉伸也(流木アート)・長浜晋介(備前一輪挿し)・小西康博(草木染) 三人展 4月1日(水)～12日(日)
- 第23回 酒井義己 水彩画展 6月2日(火)～14日(日)
- 山口匠弘(陶芸)・乾善弘(木工) 二人展 6月17日(水)～30日(火)
- 第3回 プライントクラブ シャドロー ボックス展 5月16日(出)～31日(日)

第七話 たった弁の話

一期一会、出会い、所感

米寿閑人 村上政福

過年度「一期一会」と題した小誌を発刊しましたが、自分の人生に数え切れないほどの出会いがあり、その出会いが一本の太い糸となって沢山の知恵を頂き、今日の自分がある、本当に有り難いことだと感じています。今回もたまたま執筆依頼があり、これも一期一会かな、無為に出来ない、との思いで過去の大切な出会いの一事例を紹介することにしました。

福田一先生、福井県選出の代議士です。この方との出会いは、今から約60年前にさかのぼります。当時、私は播州織工業組合に勤務しており、福井へ出張する際、内外織物の創始者の高瀬平吉大先輩が、「機会があれば一度、福井商工会議所の藤原長治会頭を訪ねておいて」と言ってくれたのです。

藤原長治会頭は、西脇市野村町のご出身で、若い頃にお勤めになっていた神戸の大手商社の倒産をきっかけに福井市への移住を決断されて自立、長年のご苦労が結実し福井を代表する実業家になられた方です。高瀬社長とは小学校の同級という間柄、そして福田一先生の後援会長でした。

この大先輩との縁が、福田先生との出会いへと発展。若輩無礼な私を大きく包んでいただいたのです。

昭和38年、西脇多可は未曾有の水害に直面し、豊川橋や杉原川上流の橋梁や工場、家屋の流出浸水など大災害となりました。そこで激甚災害指定の緊急陳情のため、兵庫県の金井元彦知事を筆頭に、関係市町長、議員、業界代表らが急遽上京しました。

時の通産大臣は、福田先生でした。

時折しも北陸三県は豪雪災害に見舞われており、大臣室の前はその陳情団であふれかえっていました。我が陳情団もやむなく立ち往生です。前日に上京していた私はその有様に驚き、すぐさま大臣室に飛び込み、ちょうど遅い朝食をとっておられた福田大臣にすくまぬに会ってほしいとお願いをしました。大臣は食事もそこそこに、我が陳情団を部屋へ招き入れてくださいました。が、請願内容が国の定める基準に合わないことが分かり、残念ながら激甚災害指定は成りませんでした。

しかし、その日の夕刻、「すぐ大臣室に来い」と連絡が入り、慌てて大臣室に走り出しました。すると、大臣から、「今し方、北陸豪雪への緊急特利特枠50億円が決まったので、君の必要な額を中小企業庁長官にすぐ会って決めなさい」と指示され、結果10億の低利枠が確保できたのです。ちなみに時の中小企業庁長官は元大阪通産局の桐山氏で、私とは旧知、また担当の金融課長は秋本保氏でした。

これもまた奇縁で、彼はその後間もなく兵庫県の商工部長になり、着任初日から私との付き合いが始まりました。早速、部長室で緊急課題を協議し、その結果一年の長きに亘る播州織の産地診断が実施されることとなり、その診断報告書をもとに、国家的プロジェクトによる繊維産地対策の制度化の請願を企画(渡海元三郎先生誘導、播州織連合青年部による国会、関係省庁、昭和42年12月の国会で特定繊維産業構造改善臨時措置法が成立し、中小企業事業団ら関連機関が発足したのです。奇しくも時の通産大臣は福田一先生でした。同法はさらに知識集約化のための繊維法として継続されました。播州織では、各織物整理加工場の移転と整備、共同サイジング工場、播州織総合開発センター、北播磨地場産業開発機構ら設立、革新織機の導入、さらに電子ジャカードら各種の技術発展へと展開したのです。

以上は、私が過去に体験した出会いの流れのほんの一例ですが、こうして振り返りますと、ゆめゆめ疎かにしてはならないのは「出会い」であると思いがっそう深まります。

「一期一会」、それは社会、家庭の原点でもありましようね。 おわり